

DVD『ハンナ・アーレント』

マルガレーテ・フォン・トロット監督／ボニーキャニオン

本作は、昨年（2014年）の「大ヒット」映画で、評判は聞いていた。そして、これを見た人は何がしかの発言をしたくなるようで、ネット上には映画評があふれている。原稿一本書くぐらい、これをテケトーにコピペすればしまいじゃ、という下心からDVDを見た。

アドルフ・アイヒマンはナチ政権下で、ユダヤ人を強制収容所に送る重要ポストにあり、ドイツの敗戦後逃走したが捉えられ、イスラエルで裁かれる。有名な「アイヒマン裁判」である。

ドイツでハイデガーに師事し、ナチの台頭後アメリカに亡命した著名な哲学者ハンナ・アーレントはこの裁判を傍聴し、「ニュー Yorker」誌にレポートを連載する。レポートの内容は世間の大変な不評を買い、激しい（今どきの言葉で言えば）バッシングに合う。映画は、この裁判を巡って、自らの信念に忠実であろうとするハンナの直面する困難と苦悩を描いたものだ。

派手なアクション・シーンや、はらはらドキドキのサスペンスこそ無いが、映画としての見どころが沢山ある。まず、ハンナがくゆらす煙草のけむり。深い思索に沈み込み、眠るでもなく起きるでもなく、体を横たえ、タバコの灰は落ちるような落ちないような…。また、度々催される家族のパーティーでの口論のシーン。これは口論というより親しい友人とのかなり緊張感のある恒例の議論らしい。当時の知識人の集まりとはこういうものか。そして繰り返される夫婦の愛の会話の交歓。結婚許可証にユーモアは必修科目なのだろう。活動家だった夫は、今やハンナを守る砦である。脳溢血で倒れるアクセル・ミルベルクの演技は、実際に経験した人だとしか思えない程リアルなものだ。時折挿入されるマンハッタンの美しい夜景。そして、とりわけ惹かれたのは、ハンナがイスラエルの田舎道をバスで移動するシーンである。揺られながら窓から外を眺める時の表情は物憂げでありながら決意を秘めている。ハンナを演じるバルバラ・スコヴァは、まるでハンナ本人のように見える。残念ながら、私はハンナに会ったことは無いのだが。

さて、すっとばけるのはこのぐらいにして、表題の「悪の凡庸さ」について説明しよう。裁判において人々を困惑させたのは、アイヒマンが全く罪を自覚せず、自分はただの役人であり自発的な行為は何一つ無い、と主張したことである。ほ

とんどの人は、これは醜い言い逃れであり、彼こそ真の悪魔であると断じた。だがハンナはレポートで、彼は国家の忠実な下僕として命令を遂行しただけであり、罪の意識が無いのは本当だとした。彼はただの役人にして、殺人工場への運搬人あるいは技師にすぎない。普通の人が自分の行為の結果について思考を停止し、無自覚に任務を遂行することこそ悪の本質であり、その向こうに人間の皮を被った異形のモンスターが居るわけでない。世界最大の悪は、ごく平凡な人間が動機も信念も邪心も悪魔的な意図も無しに行うものであった。ハンナは、それを「悪の凡庸さ」と呼んだ。

これは、多くの人びとの反発を招いた。家族や友人を皆殺しにされ、かろうじて収容所から逃げ延びた経験をもつ者達が、この考えを受け入れられないのは当然だろう。(ハンナはそう主張しているのではないが) アイヒマンに自らの行為の責任が無いとすれば、一体地球上の誰に責任があるのか。

また、ハンナは、ユダヤ人グループのリーダーが、結果として、多くの同胞の犠牲に関わったことに言及した(それが彼女の理論の肝ではあった)。特にこのことが同胞達の逆鱗に触れ、共に戦い心を許しあった友人たちも、ことごとく去って行く。ついには大学の職を辞するよう勧告されるが、激しく反発する。

罪を憎んで人を憎まず、の伝統がある日本人にとって、ハンナの考え方はむしろ理解できるものであるかもしれない。目前の罪を棚上げにし、罪の構造を理詰めで(煙草のけむりをくゆらせながら)考え抜く態度は、主知主義と捉えられなくもない。だが、ハンナは、自分の存在をかけて、この未曾有の災厄の本質を次世代に伝えようとした。映画の最後でハンナが大学で行う講義では、危機的な状況においても考えぬくことの大切さ、それが破滅を回避する唯一の手段であることを説き、多くの学生が拍手で応えた。だが、教室に残った旧友からは、ハンナに非常に厳しい言葉と共に絶縁が静かに告げられる。ハンナは、自分は今とても疲れている、と繰り返すのが精一杯だった。

それにしても、このアーレント教授の、学生にもものを伝えようという気迫は圧倒的である。伝えたいことがある、ということ以上に伝えることを可能にするものはない。コピペがどうしたとか適当なことを言ってる場合ではないのだった。

執筆者紹介

原 信一郎

基盤共通教育部教授。専門領域は、代数的位相幾何学。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

【DVD】『ハンナ・アーレント』 マルガレーテ・フォン・トロッタ監督 ポニー
キャニオン 2012年 4,026円

[ブックガイド目次へ](#)